

令和7年度 摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)			平均IRTスコア
			国語	数学	国語	数学		理科
3 年	学校	114	49	38	9.0	14.2	学校	463
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	113	58.5	45.4	49.5	43.5	49.9	8.5	8.2	14.5	13.3	9.2
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●「全国学力・学習状況調査結果」

全体的に平均正答率が上がった。昨年度と比較しても、国語は8.8ポイント、数学は6.2ポイント上がった。しかし、全国平均と比較した場合、国語は5.3ポイント、数学は10.3ポイントと下回っているため、今後も継続した学習活動を展開していく。また、平均無回答率についても昨年度と比較し改善されつつある。教科ごとの結果は以下の通りである。

〈国語〉すべての項目において学力が向上した。特に書く・読むの項目については、昨年度と比較し、それぞれ15.7ポイントと11.4ポイント向上した。全国平均と比較しても-5.3ポイントと、昨年度より8.8ポイント改善され、今後の課題としては、「言葉の特徴」についての理解を深める必要がある。

〈数学〉すべての項目において学力が向上した。特に関数と、データの活用の項目については、昨年度と比較し、それぞれ6.5ポイント、9.8ポイント向上した。全国平均と比較した場合-10.3ポイントと開きはあるものの、昨年度から6.2ポイント向上した。「思考・判断・表現」の分野については昨年度より7.2ポイント上回っており、全国平均に近づきつつある。今後も継続的な基本練習を重ねる必要がある。

〈質問紙調査〉「将来の夢や目標を持っていますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目については全国平均を上回っている。しかし、「自分には、良いところがあると思いますか」の項目では全国平均に比べて低く、今後は両項目が連動できる取組みを実践していく。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目においても全国平均と比較して低く、改善していく必要がある。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目については、全国平均よりは低いが、それぞれ93%を超えているので、さらに肯定的回答を高めていく。

【今後に向けて】放課後学習会やテスト前学習会等の成果が出てきている。主体的に参加し学習する生徒も増え、学習に対する意識は向上している。特にテスト前学習会では参加生徒数が多く学びサポーター及び学校元氣アップ、各学年教員等が多数学習サポートを行い、活気のある学習活動の場となっている。また、夏休みの補充学習会にも積極的に参加する生徒が増え、今後も継続した実施を行っていく。図書室の利用については、一定数定期的に足を運び本を借りる生徒もいる。これらが、日々の家庭での学習や読書の習慣につながれば良いが、なかなか定着には至っていない。家庭学習の定着に向けては、宿題等課題の工夫に引き続き取り組む。キャリア学習では、各学年、企業と地域、保護者と連携した体験学習および職業講話(生き方学習会)を充実させ、学習目的や学習意欲の向上をめざし取り組んでいる。また、事前・事後学習を含め、意見交流やプレゼンに取り組むなど主体的、対話的な活動の取組みも行っている。今後、教科指導においても予想・実験・考察の機会を多く持ったり、「根拠を示して自分の意見を発表することや話し合い考えを深める機会を積極的に設けるなど、学校全体で主体的に対話的活動に取り組む、「深い学び」につなげていく。更には心の天気を含むICT活用率を高め、個別最適な授業づくり、授業改善に取り組んでいく。

●「中学生チャレンジテスト(3年生)」

【成果と課題】

国語〈成果〉大阪府平均と約6点低かった。話すことに関する問題では大阪府平均に近かったが、古文問題や短答式の問題で大阪府平均との差が見られた。

〈課題〉全体の平均点および、「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題については、大阪府平均より大幅に低くなっている。今後も古典分野や日常における言語指導を続けていく必要がある。

社会〈成果〉平均点は大阪府と比較して、5.8マイナスであった。地理分野・歴史分野ともに府平均から3.8と2.2とマイナスであったが、全体的に府平均に近づきつつある。

〈課題〉社会科においては、地理・歴史両分野とも府平均よりも低いいため、基礎を固め、知識の定着が図れるように、振り返りのプリントなどを用いて、知識の定着を図っていく。

数学〈成果〉平均点は大阪府と比べて、マイナス4.4マイナスであった。どの分野においても大阪府平均を下回っているが、いずれも平均値マイナス1程度に近づいている。

〈課題〉数学科では特に基礎、基本の定着を図るために問題演習の量の増加をさせていく。また、個々のレベルに合わせて学習が進められるよう、レベル別のプリントに取り組ませていく。

理科〈成果〉平均点は大阪府と比べて、2.5点低かったが、領域では特に、生命単元および地球単元が大阪府平均との差はなく、着実に実力がついてきた。

〈課題〉理科において、普段生活の中で使わない語句を復習することが自信と結果につながると考えるので、語句や重要項目に取り組み知識の定着を図る機会を増やしたい。

英語〈成果〉平均点は大阪府と比較して、3.3マイナスであった。「聞くこと」「読むこと」の正答率については、大阪府平均とかなり近い値であった。リスニングや読むことを定期的に行った成果であると考えられる。

〈課題〉全体の平均点および、「書くこと」などの記述する問題については、大阪府平均より低くなっている。テンプレートなどを用いて、さまざまな条件の英作文を書く機会が必要である。

〈アンケート〉○成果アンケート調査においては「普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、本(教科書は除く)を読みますか」の項目については府平均より上回り、読書の習慣のある生徒が多い。しかし、「普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか」について、4時間以上使用すると回答が42.2パーセントと、非常に高い数値となった。

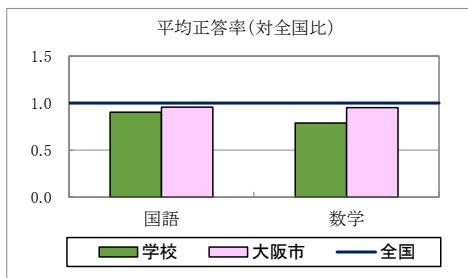
【今後に向けて】「中学生チャレンジテスト(3年生)」の結果より、各教科・各領域において府平均より下回っている。しかし、全教科において府平均に近づきつつあり、着実に実力が付き始めている。今後も、基礎基本の知識定着を重点的に進めていく。また、「読書」の習慣がさらに身に付くよう、図書室の活用を促進させていく。

令和7年度 摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

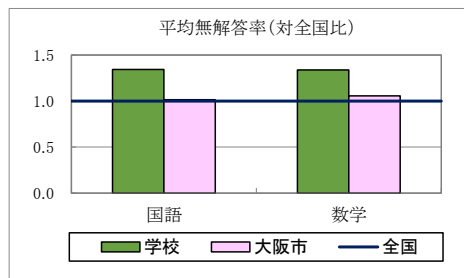
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	49	38
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

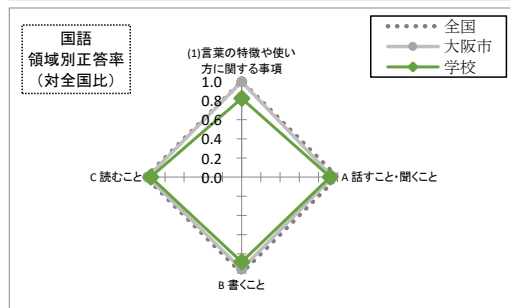
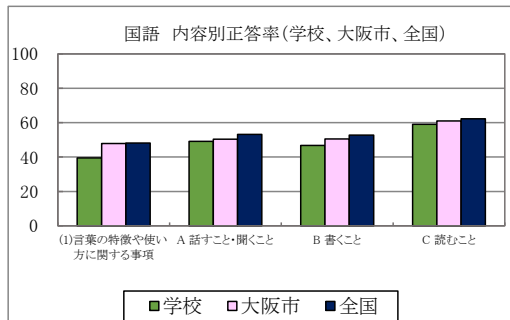


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	9.0	14.2
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



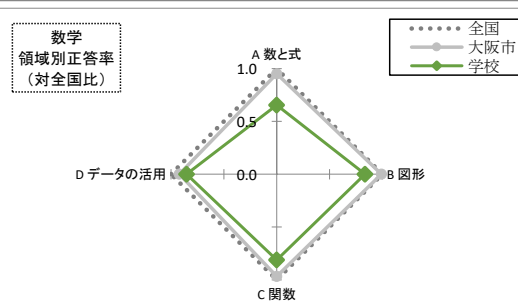
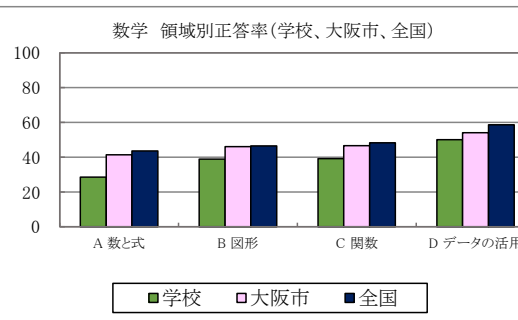
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	39.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	49.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	46.7	50.6	52.8
C 読むこと	3	59.1	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	28.5	41.4	43.5
B 図形	4	38.9	46.1	46.5
C 関数	3	39.1	46.6	48.2
D データの活用	3	50.0	54.0	58.6

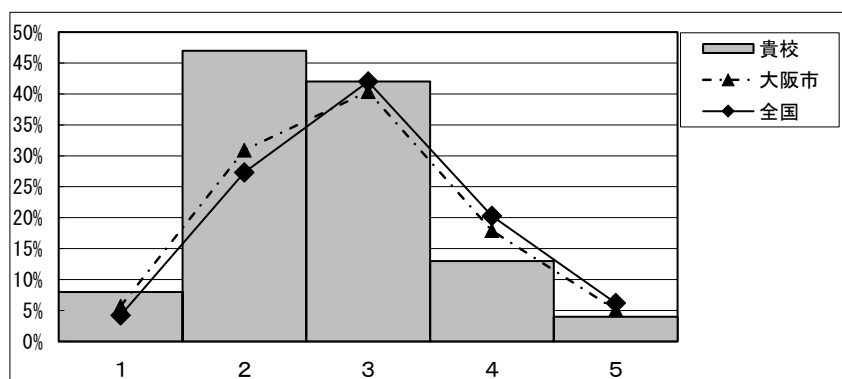
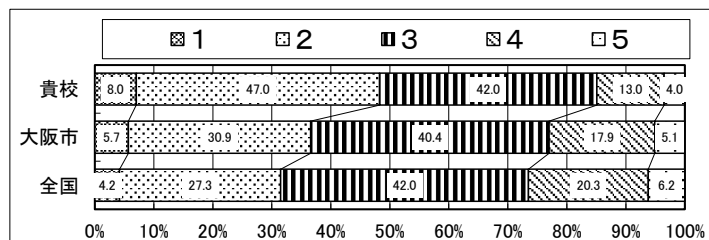


令和7年度 摂陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	463
大阪市	489
全国	503



令和7年度 摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

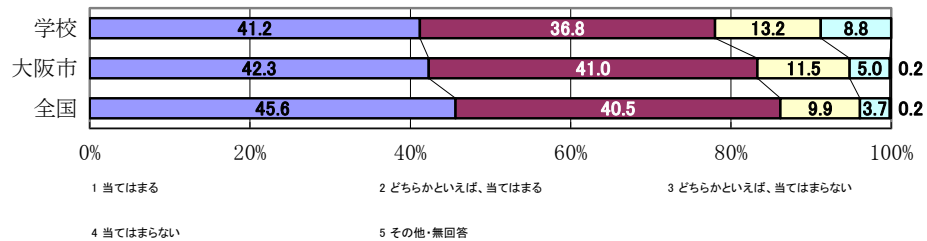
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

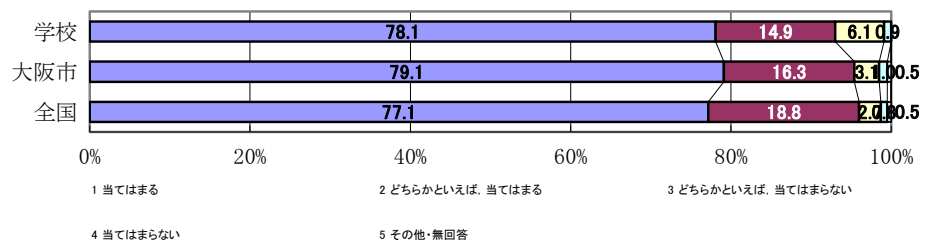
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



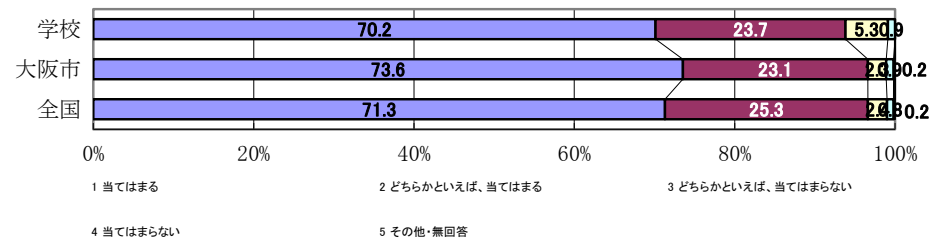
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



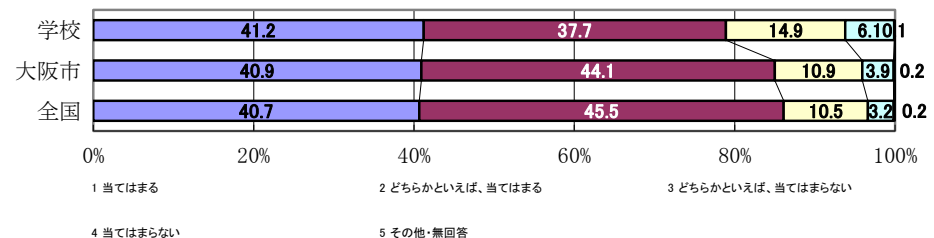
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



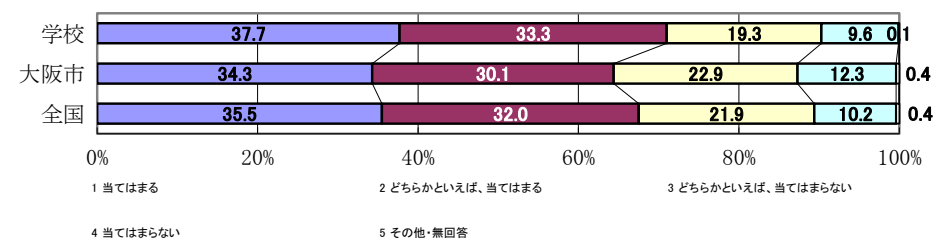
5

自分には、よいところがあると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



令和7年度 摂陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

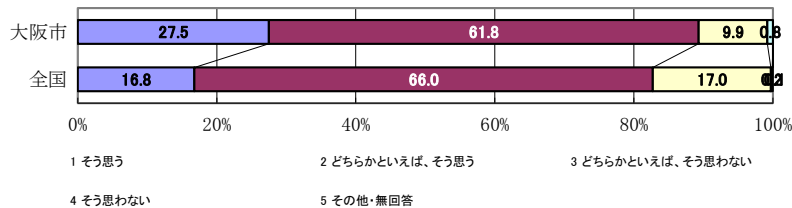
質問番号

質問事項

26

調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

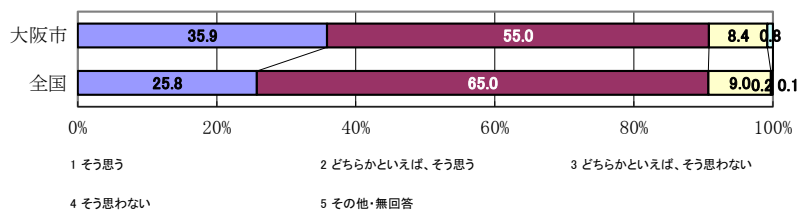


1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない 5 その他・無回答

27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

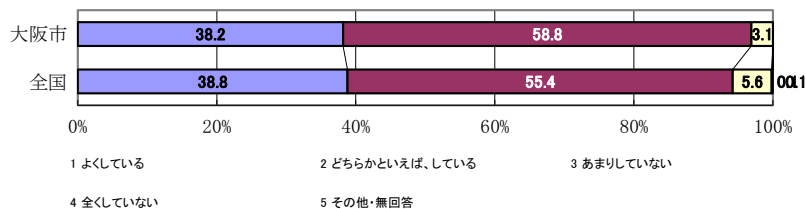


1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない 5 その他・無回答

37

調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

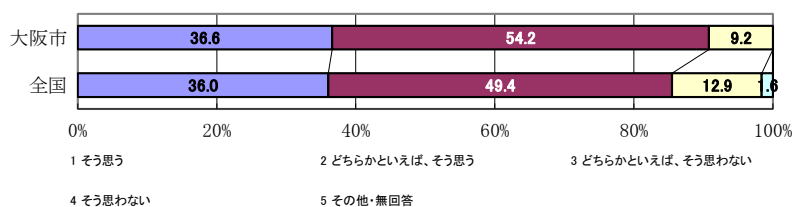


1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない
4 全くしていない 5 その他・無回答

57

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

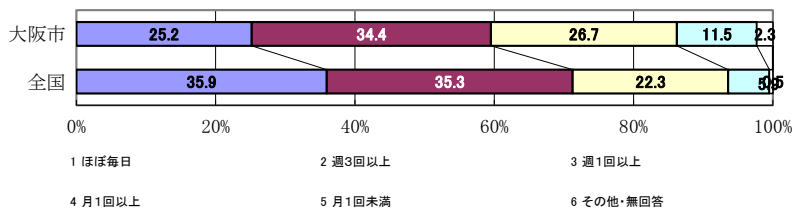


1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない 5 その他・無回答

59

調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週1回以上」を選択



1 ほぼ毎日 2 週3回以上 3 週1回以上
4 月1回以上 5 月1回来満 6 その他・無回答